

書面審議にかかわる意見

令和2年4月20日

江東区立明治小学校 校長 喜名 朝博

1 意見案について

特にありません

2 京都大学石井先生の資料について

- ・個別最適化された学びの実現を考えたとき、年齢主義の壁にぶつかることになる。その意味で石井先生のご発表は示唆に富んでいる。
- ・現状の学校制度で個別最適化された学びを実現するためには、あくまでも学習指導要領の内容の中で、学びの最適化を考えるべきである。その条件として、少人数学級の実現とICT環境の整備が条件となる。
- ・一方で学校現場の現実として、学年相当の理解力をもっていない子が一定数おり、学年進行に伴って学習の積み残しによりその数は増えていく。これは、特別支援教育の考え方も直結しており、インクルーシブ教育の難しさになっている。
- ・石井先生が指摘されるように、「授業は学びの導入である」と考えると、個に応じた教育が実現できるが、系統的な学びは難しくなる。
- ・その意味でも、石井先生の資料「学力・学習の質的レベルと『知の構造』」にあるような考えた方で学習指導要領を再構築することも有効だと思われる。
- ・また、「主体的・対話的で深い学び」と個別最適化された学びが共存する授業の在り方も学校現場として、今後の研究対象となる。

3 熊本市教育委員会の資料について

- ・ICT活用による授業の効率化によって教育課程に余裕をもたせられることが証明された好事例である。
- ・個別最適化された学びの提供という視点でも評価される内容である。
- ・ICT活用の課題として、それを使うことが目的とならないことがあげられる。あくまで、主体的・対話的で深い学びを実現するためのツールであることを考えておきたい。
- ・今般の状況に鑑みても、タブレットPCの一人一台の貸与は必須であり、双方向性の学びの実現のためにも、通信環境の整備もセットで行うべきである。
- ・標準授業時数について、時数が先行するのではなく、学習指導要領の内容と授業の在り方から必要な授業時数を算出するという視点が必要である。その際、熊本市等の知見を生かし、ICT活用により節約できる時数等を示すことにより、ICT環境整備に拍車をかけたい。

以上